

新潟県総合計画評価・策定検討委員会 第3回全体会議 議事概要

1 開催概要

- (1) 日 時：令和6年8月8日（木）10：00～12：00
- (2) 会 場：新潟県庁 西回廊2階 講堂（新潟市中央区新光町4-1）
- (3) 出席者：委員21名中、19名出席（うちWEB出席2名）

2 議事概要

(1) 事務局説明

議題(1)「新潟県総合計画 最終評価報告書（案）」、議題(2)「次期新潟県総合計画（仮称）骨子案」、議題(3)「計画策定ワーキング等」について事務局から説明を行った。

(2) 主な委員意見

事務局説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

ア 次期計画の構成、政策の体系について

- 次期総合計画の構成として、最初に基本理念を掲げ、その後に重点政策や基本政策を説明していく順序の方が、基本理念と各政策とのつながりが分かりやすいのではないか。
- 骨子案について、初めに本県の現状・課題を共有し、それからめざすべき将来像を掲げるという流れは、足元の課題解決のための議論だけではなく、理想とする姿の実現に向けた前向きな議論ができると思うので、良い構成だと考える。
- 全体概要に「子育て」という文言だけが出ているが、現在、県においては「新潟県こども計画（仮称）」の策定を進めるなど、こども施策に力を入れて取り組んでいることを踏まえ、上位計画である総合計画の中でも「こども・子育て」という形で位置づけていただきたい。
- 全体概要に「交流人口拡大」との記載があるが、それに加えて、二地域居住の促進など、関係人口の創出を推進するという視点も必要である。

イ 人口減少問題への対応等について

- 「人口定常化」とあるが、どの時点での人口規模を維持していく考えなのか。仮に、現在の人口規模ということであれば、どのように実現していくのか。また、「人口定常化」という表現は一般県民にはなじみが薄いと思われるため、用いる場合には配慮が必要である。

- 人口減少問題については、県として様々な取組を幅広く進める必要があるが、問題解決には県民の将来への明るい展望も必要である。地域の文化や歴史を活かした個性あるまちづくりを行い、新潟に住むことが快適でステータスに思えると、地域への愛着や将来に対する希望も生じるのではないか。
- 若者や女性から「選ばれる新潟」を実現するためには、働く場の確保が重要であり、県として力を入れていくというメッセージを、より前面に出していただきたい。
- 子育てに優しい環境づくりのためには、女性だけではなく、男性も含めた誰もが働きやすい環境を整えていく必要がある。
- 人口減少を踏まえ、県民の住みやすさや利便性にも配慮しながら、インフラ投資・管理の適正化やダウンサイジングを考えていくことも必要である。
- 「佐渡島の金山」や新潟らしい豊かな自然環境など、本県の特長・優位性を活かした施策を展開していただきたい。

ウ 政策の達成目標（成果指標）について

- 次期計画の達成目標については、達成には相当の努力が必要だが、達成できれば明るい未来が待っているという、希望を県民に持ってもらえるような目標を設定していくことも必要ではないか。
- 成果指標について、最終的に達成したい成果を表す指標（最終アウトカム）とより県の取組に近い成果を表す指標（中間アウトカム）を設定するなど、様々なタイプの指標を組み合わせて総合的に評価することも検討していただきたい。また、目標値については、全国順位などを根拠とするような、客観性を備えた設定をしていただきたい。
- 事務局の説明（資料3-2）では、アウトカム指標の設定などについては一定程度考慮されたと思うが、目標値の水準について、あるべき姿から逆算して目標を設定するのか（バックキャスト）、現状の延長線上から目標を設定するのか（フォアキャスト）など、設定の考え方を整理しながら検討を進めるべきである。
- 各政策における成果指標の達成状況は、一律の基準で機械的に評価することが難しい面もあるため、次期総合計画においては、より適切な評価方法を検討していく必要がある。

エ 総合計画の丁寧な説明と県民による議論の喚起について

- 現行計画の最終評価の結果を県民に対し分かりやすく発信するため、報告書の概要版などを作成してはどうか。
- 総合計画を策定した後、こどもや若者を含め県民に分かりやすく計画の内容を伝え、新潟の未来について考えていただくような取組を検討していただきたい。

以 上